



# 学 校 便 り 琢 磨

令和4年度 第23号 R5.2.24 三豊市立詫間小学校

## 栄光を讃える

今週の火曜日に、放送にて表彰状の伝達をしました。

- 全国的に特に優れた成績をおさめた児童表彰（香川県教育委員会）

2年 樽井 陸（全農杯2022年全国卓球選手権大会）

敬称は略します。おめでとうございます。

## 卒業式のマスクの着用について

今後のマスクの着用については、香川県教育委員会、三豊市教育委員会の指導を受け、市内の校長会での協議を通じて、以下のようにいたします。なお、学校の実情（規模、施設、行事の内容等）によって対応は異なります。ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

- 体育館に入場する 6年生…入場から退場までマスクは着用しない。  
（マスクの着用を希望する方は、もちろん、着用いただいても結構です。また、歌唱時だけ等、部分的な着用についても同様です。）
- 体育館に入場する 5年生…入場から退場までマスクを着用する。  
（声を出さない場面において、各自の判断でマスクを着脱いただいても結構です。）
- 保護者の皆様、教職員 …マスクを着用する。  
（教職員がマスクを外す場面は、校長式辞、担任の児童の呼名の場面のみです。）
- 本年度も、国歌斉唱、校歌斉唱はありません。5年生の呼びかけ・合唱は、マスク着用で行います。6年生の呼びかけ・合唱時は、5年生が体育館の壁側に移動して距離を保ちます。
- 見送りは屋外ですので、声を出さない、会話しない場合は、マスクは必要ありません。これは、卒業生、在校生、保護者の皆様、教職員共通です。個人の判断にお任せします。

※卒業式練習におけるマスクの着脱については、その都度、教員から指示いたします。卒業式予行については、卒業式と全く同じ対応で行います。

※1～4年生については、リモートでの参加となりますので、日常の対応と同様です。

※今後の日常の学校生活でのマスク着用については、新型コロナウイルスの感染が、まだ見られることやインフルエンザの流行もあり、当面、これまでどおりの対応とします。今後、対応が変わりましたら、速やかにお知らせいたします。

## 室内での上着の着用可の終了時期について

現在、感染症予防の換気を徹底するため、室内での上着や長ズボン等を自由に着用可としています。この措置は、卒業式の前日、3月16日までとします。

卒業式の日から、以下の対応をお願いします。ただし、季節外れの寒波が到来した場合等は、その都度、対応をお知らせします。

- 登下校時の上着（長ズボン等）の着用は自由。上着は、ロッカーにしまう。
- タイツ等の着用は自由。（卒業式の日5、6年生は着用しない。）
- 体調等で、室内で上着（長ズボン等）の着用を希望する場合は、保護者から担任に連絡する。
- ソックスの白色の統一は、卒業式に参加する5、6年のみ。修了式、終業式、離任式等は、通常通りの3色。（次回の統一は、入学式。新入生と新6年生のみ。）

## 富士山

以前、「私は、大学時代に山梨県に住んでいた。」ということはこの「独り言」に書きましたので、知っている方も多いと思います。タイトルの富士山は、ご存じのとおり、山梨県と静岡県にまたがってそびえ立っている日本一の山です。

私が、富士山を初めて見たのは、高校の修学旅行でした。ところが、その時の記憶がありません。感動したような、そうでもなかったような。はっきりと富士山を「すごいな！」と思ったのは、大学に入学した時です。

当時は、瀬戸大橋もかかっていませんでした。高瀬駅を午前8時頃出て、高松まで1時間半。そこから宇高連絡船で1時間。宇野から岡山まで電車で行き、新幹線で岡山から東京へ。東京駅についたのは夕方の4時頃。それから立川駅まで中央線、立川駅から中央本線に乗り換えて大月駅。そこで、富士急行線に乗って谷村（やむら）駅。その駅の近くの下宿（1階が大家さんの自宅でその2階に6人くらいの学生が、それぞれ4畳半の部屋に住んでいる。台所、洗面所、トイレは共同。なんと家賃は月8,000円。）に着いたのは夜の8時頃。外の景色は全く見えませんでした。翌朝、台所の窓から富士山が少しだけ見えると先輩に教えられ、のぞいてみたら、あの雄大な富士山の山頂部分が見えたのです。「すごいな！」と思いました。しかし、その感動もつかの間、こんな寒い町で、こんな寂しい町で、こんな田舎（一応「市」だけど、当時の三豊郡高瀬町とあまり変わらない。）で、誰一人知り合いもない町で4年間も過ごさなければいけないのかという不安と悲しみが押し寄せてきたのです。「毎日、富士山が見えるなんて、こんなすごい場所はないよ。」と、富山県出身の先輩に言われても、「富士山なんてどうでもいいや。東京に住みたい。いや、香川に帰った方がましだ。」とまで思ったのです。

それから4年後。4年前に降り立った駅から、私は香川に向けて旅立ちました。その日の出発も朝の8時頃でした。4年間の月日の流れというのは不思議なものです。その時に、駅のホームから見た富士山の山頂が、ふるさとの景色に思え、寂しさがこみ上げてきました。

富士山は、山梨県ならどこからでも見ることはできません。私が住んでいた都留市だと、その全ぼうは無理ですが、山頂だけなら見ることはできます。都留市から富士山に向かって行くと10km程先に富士吉田市というところがあって、実は、高校の修学旅行で見た富士山は、この富士吉田市にある富士急ハイランドという遊園地からなのですが、ふもとから山頂まで、全ての姿を見ることができるのです。下の写真は、この前、久しぶりに河口湖（富士吉田市の隣）に行ったのですが、その時に湖畔から私が撮った写真です。この日は、湖面に波が立っていましたが、富士山の姿が湖面に映るということはありませんでした。しかし、風がなくて、湖面に波が立っていなければ、富士山の姿が鏡のように湖面に映ります。それが、有名な「逆さ富士」というわけです。

私は、大学生の時に、ちょうどこの写真を撮った場所に近いレストランでアルバイトをしていました。いやと  
いほど見た景色  
が、なつかしくて  
愛おしくて、40  
年もの月日を経て  
も、第二のふるさ  
とは、何も変わっ  
ていなくて…。

今度、この場所  
に来ることができる  
のは、いつだろ  
う？と、決して大  
学に入学した時  
には無かった感情に  
ひたった冬の一  
日の出来事でした。

